

平成 29 年度インフラメンテナンス国民会議総会開催される — 第 1 回インフラメンテナンス大賞決まる! —

CNCP 常務理事 **皆川 勝** (国民会議実行委員)
CNCP 常務理事 **有岡正樹** (国民会議市民参画フォーラム事務局)

記念すべき第 1 回総会が、7 月 24 日 (月) に中央合同庁舎講堂において約 350 名の参加を得て大に開催された。この総会では、やはり第 1 回となるインフラメンテナンス大賞授与と発表会が執り行われることから、大西隆選考委員長 (豊橋技術科学大学学長・日本学術会議議長)、主務省庁代表として、石井啓一国土交通大臣ほか各省庁の大臣政務官を迎えた盛大なものとなった。石井大臣は、国民会議は産官学民が一丸となったプラットフォームであり、省として最大限の支援をするので、あらゆる知恵や技術を総動員してこの取り組みを成功させましようとの力強い祝辞を述べられた。また、実行委員会からは、平成 28 年 11 月 28 日の国民会議創設までの検討経過と創設後の活動の概要が紹介された。

第1回 インフラメンテナンス大賞 表彰式・平成29年度 インフラメンテナンス国民会議 総会 開催概要

日時: 平成29年7月24日 (月) 10:30~15:30	場所: 中央合同庁舎2号館地下2階講堂
議事: (午前の部) 国土交通大臣祝辞、各賞授与、大賞選考委員長講評、国民会議会長・副会長からのメッセージ (午後の部) 各省大臣賞 受賞案件プレゼン、国民会議活動報告・計画説明、第2回大賞についての説明	

当日の様子	出席者一覧
 <p>国土交通大臣 祝辞</p>	 <p>各賞授与</p>
 <p>選考委員長 講評</p>	 <p>会長・副会長からのメッセージ</p>
	 <p>各省大臣賞 受賞案件 プレゼン</p>

<ul style="list-style-type: none"> 委員長: 大西 隆 (豊橋技術科学大学 学長、日本学術会議 会長) 会長: 高山 和彦 (株式会社国土建設院 代表取締役社長) 副会長: 栗田 仁 (産業技術大学院大学 教授) 主務省庁代表: <ul style="list-style-type: none"> 石井 啓一 (国土交通大臣) 金子 めぐみ (経済大臣政務官) 山下 浩 (厚生労働大臣政務官) 堀内 昭子 (農林水産大臣政務官) 細田 健一 (農林水産大臣政務官) 高澤 博行 (防衛大臣政務官) 都道府県・政令市: 43名 大賞 受賞者: 133名 国民会議 会員: 94名 関係省庁: 40名 マスコミ: 19名 	<p>合計 約350名</p>
---	-----------------

1. 第 1 回「インフラメンテナンス大賞」受賞者選定

大西選考委員長の講評では、選考の視点を、意欲的、あるいは他の参考となるような取り組みに対して社会的財産としての価値を与えることに置いたことなどから、結果として、248 件の応募に対して右表 28 件を選定されたことが紹介された。さらに、例えば、文部科学省・防衛省関係の応募が少なかったこと、厚生労働省関係では水道関係の取り組みのみで、医療関係の応募がなかったこと等、インフラのジャンルを網羅することが必要であることが改めて強調された。応募区分が、ア)メンテナンス実施現場における工夫部門 (現場工夫)、イ)メンテナンスを支える活動部門 (活動支援)、ハ)技術開発部門 (技術開発) の 3 つに分けたが、表に示すように現場工夫に表彰が偏っていることもあり、今後、回を重ねる上でその区分の再編も検討されることになろう。いずれにしてもこれらの表彰活動が、ベストプラクティスとして水平展開することを期待したいと締めくくられた。

第1回「インフラメンテナンス大賞」表彰内訳

担当省	賞別			応募区分			計
	大臣賞	特別賞	奨励賞	現場工夫	活動支援	技術開発	
総務省	2	1	3	3	0	3	6
文部科学省	1	1	2	2	2	0	4
厚生労働省	1	0	2	1	0	2	3
農林水産省	3	1	3	2	3	2	7
国土交通省	3	1	3	4	2	1	7
防衛相	1	0	0	1	0	0	1
計	11	4	13	13	7	8	28

2. 会長・副会長によるメッセージ

上記 28 件の表彰式が終了した後、富山和彦会長並びに家田仁副会長から、祝意を兼ねて今後の活動に向けての以下の通りメッセージがあった。

1) 富山会長からは、創立から半年余りの期間でこれだけの成果が出たことに感謝の言葉があり、2 年から 3 年を正念場としてインフラの資産価値を高め、環境・持続可能性・ガバナンスを重視しながら、広い領域を取り扱うインフラメンテナンスの分野を、大賞受賞者にも含まれている若い世代、異分野を含め、世界初の取り組みとしてアピールしてゆく強い意志が示された

2) 家田副会長からは、この取り組みが官庁を超えていることがミソであること、この活動を通じて国民に各分野のインフラの現状を知ってもらう啓発活動であること、産官学民に加えて政にも広く知ってもらうことが重要であること、さらには活動の中から得た多くの発見の中から共通性を見出して分野を超えて進めることが重要であることなどが述べられた。そして最後には、国民全員が参画するのが国民会議であり、受賞に入らなかった活動に対する感謝の言葉で締めくくられた。

3. 受賞案件の紹介

上表の大臣表彰のうち各省庁の 7 件について、1 件当たり質疑を含めて各 20 分の受賞者によるプレゼンテーションがあった。紙面の関係でこれらすべてを紹介することは出来ないため、当部門が取り組んでいる自治体インフラメンテ研究会に関係の深い 3 件について触れておきたい。

1) GIS と三次元点群データを活用した道路・構造物維持管理支援システムの開発

首都高速道路(株)では「インフラドクター」と称して情報通信技術 ICT を用いて維持管理業務を進めている。土木学会が昨年度から導入した「インフラ健康診断」とも通ずるところがあるが、総務省に応募している点が「省際的」、「国民会議的」である。

2) 東日本大震災支援「海岸林再生プロジェクト 10 ヶ年計画」

海岸林を農業・産業・生活を守る重要な「インフラ」と考え、国や自治体で策定される復興計画等に沿って、被災地住民等の雇用創出を図りながら、名取市海岸林再生の会とともに実施している。

3) しゅうニャン橋守隊 (CATS-B) による猫の手メンテナンス

地方のインフラメンテナンスに危機感を抱いた有志の声掛けから始まった産官学民の幅広いメンバーで構成される任意団体で、猫のように気ままに不定期に集い、日常生活の延長上で実施できるメンテナンスを体験型ボランティア活動として住民に提供している。

4. 国民会議活動報告・計画説明

午前中の総会開始に当たって実行委員会代表より紹介のあった、国民会議創設までの検討経過と創設後の活動の概要説明を受けて総会午後の最後に国土交通省総合計画局から、とくに国民会議設立以来積極的に動き出している技術革新、自治体支援フォーラムに関し事例を上げて説明があった。施設管理者により現在鋭意進められているすべてのインフラの点検結果に基づき深堀された当面のニーズを受けて、H32年までに管理計画策定を終えることを目標としている。それが具体化するためには自治体のニーズと企業の技術開発によるシーズのマッチングが重要で、様々な機会を通してそれらを仲介していく国民会議の役割は大きいとして、今年度は地方フォーラムの立ち上げに尽力していることが紹介された。

また、今回の第 1 回インフラメンテナンス対象における受賞活動の水平展開と、その公募、審査の過程で出た様々な課題を整理して企画する H30 年 1 月第 2 回の応募に協力依頼があつて総会を終えた。